シンポジウム

◆ 生成 AI と知財戦略:企業イノベーションと知的創造サイクルの新展開 ◆

【趣　旨】

生成 AI 技術の急速な発展により、音声や肖像などの人物識別情報を人工的に生成・再現することが可能となり、企業活動やクリエイティブ産業における活用の可能性が飛躍的に拡大している。その一方で、著作権・著作隣接権、パブリシティ権、人格権、不正競争防止法との関係といった既存の法制度との整合性、さらには企業の知財戦略やイノベーション政策との関係において、多面的な課題が顕在化している。

本シンポジウムでは、生成 AI をめぐるコンテンツビジネスの最前線とその法的・倫理的課題を俯瞰し、特に音声や肖像などの「人物識別情報」の無断生成・利用の問題を中心に据えて、今後の健全な技術活用と社会的ルール形成の方向性を探る。

政・産・学の多様な立場から、知的創造サイクルの新たな展開と企業イノベーションの持続的発展に向けて、制度・実務・倫理を横断する議論を深めることを目的とする。

【登壇者】

・基調講演

三谷 英弘 氏（衆議院議員・弁護士）

・パネリスト

三谷 英弘 氏（衆議院議員・弁護士）

久保 雅一 氏（株式会社 area358 代表取締役／日本知財学会 副会長）

倉田 宜典 氏（一般社団法人日本音声 AI 学習データ認証サービス機構 代表理事）

田村 元 氏（ElevenLabs Japan ゼネラルマネージャー）

関 真也 氏（関真也法律事務所 弁護士）

・司会／モデレータ

今村 哲也（明治大学 情報コミュニケーション学部 教授／大会実行委員長）

シンポジウム

◆ 生成 AI と知財戦略:企業イノベーションと知的創造サイクルの新展開 ◆

【パネリスト略歴】

三谷 英弘 氏
(衆議院議員)

1976 年自衛官の長男として誕生。藤沢市出身。
栄光学園高、東京大学法学部卒、ワシントン大学院修了。
弁護士。
2012 年総選挙で初当選。
神奈川８区(横浜市緑区･青葉区)、現在４期。
文科大臣政務官、衆議院厚労委理事、党国対副委員長など歴任。
現在高市内閣で法務副大臣を拝命。

久保 雅 一 氏
(株式会社 area358 代表取締役、日本知財学会 副会長)

1959 年北海道生まれ。早稲田大学教育学部卒業後、
1983 年に小学館へ入社。
『てれびくん』『月刊コロコロコミック』などの編集を経て、『おぼっちゃまくん』や『ミニ四駆』のブームを仕掛けキャラクタービジネスの先駆者として活躍。
1995 年には『ポケットモンスター』のテレビアニメ化を任天堂に提案し、メディアミックス展開を牽引。以降、映画『ポケモン』シリーズのエグゼクティブプロデューサーを務めるなど、映像制作に注力。小学館集英社プロダクション常務取締役、小学館ミュージック＆デジタル エンタテイメント SMDE 代表取締役などを歴任。
2025 年には株式会社 area358 を設立し、代表取締役社長に就任。現在もコンテンツ産業の発展に貢献し続けている。
日本知財学会では、副会長・理事、コンテンツ・マネジメント分科会、知財制度・判例分科会等を担当。

シンポジウム

◆ 生成 AI と知財戦略:企業イノベーションと知的創造サイクルの新展開 ◆

【パネリスト略歴】

倉田 宜典 氏
(一般社団法人日本音声 AI 学習データ認証サービス機構
代表理事)

筑波大学大学院理工学研究科修了。
対話ロボット開発者/音声 AI 活用事業プランナー。ソニー株式会社エンタテインメントロボットカンパニーにて「AIBO」二足歩行ロボット「QRIO」の開発に従事したのち、ネットワークサービスグループ技術戦略室課長、ソニーモバイルコミュニケーションズ株式会社エージェント企画開発室室長などを歴任。アニメのキャラクターの音声 AI を活用した「めざましマネージャーアスナ」の発案、開発を担当し 100 万ダウンロードを達成。バーチャルアナウンサー「沢村碧」の開発ではデジタルサイネージアワード技術賞を受賞。現在、東芝デジタルソリューションズ株式会社フェロー。音声合成ツール「Voice Track Maker」の発案、開発を手がける。エンターテインメントロボットフォーラム代表幹事。

田村 元 氏
(ElevenLabs Japan ゼネラルマネージャー)

ビジネスアプリケーションを通じて企業のパフォーマンス向上を 35 年以上支援。2000 年代後半から日本のクラウドコンピューティングの先駆者として、SaaS ソリューションを通じて業務効率化を推進。
過去には SAP ジャパンのマーケティング副社長、NetSuite Japan の社長、Microsoft Japan のビジネスアプリケーションディレクター、Asana Japan のゼネラルマネージャーを歴任。バーチャルオフィスプラットフォーム ovice の COO を経て、
2025 年に ElevenLabs Japan の現職に就任。

シンポジウム

◆ 生成 AI と知財戦略:企業イノベーションと知的創造サイクルの新展開 ◆

【パネリスト略歴】

関 真也 氏
(関真也法律事務所 代表弁護士・ニューヨーク州弁護士
日本バーチャルリアリティ学会認定上級 VR 技術者)

エンタテインメント、コンテンツやファッションのほか、XR(VR/AR/MR)、メタバース、VTuber、人間拡張、生成 AI、バーチャルファッション等のテクノロジーに関わる領域の知財・法務に従事する。

一般社団法人 XR コンソーシアム監事、日本商標協会理事・法制度研究部会長、ファッションビジネス学会ファッションロー研究部会長、一般社団法人日本知財学会コンテンツ・マネジメント分科会幹事等を務めるほか、関係する官公庁の委員等の経験も持つ。東海大学総合社会科学研究所客員講師その他大学講師等を歴任。『XR・メタバースの知財法務』（単著、中央経済社、2022 年）、『ビジネスのためのメタバース入門』（共編著、商事法務、2023 年）、『ファッションロー〔第 2 版〕』（共著、勁草書房、2023 年）、『バーチャル空間のビジネスと知財法務の教科書』（編集代表、日本法令、2024 年）、「連載：エンタテインメント産業における生成 AI・ディープフェイクと声の権利（全 3 回）」（コピライト 2025 年 8 月号～10 月号）をはじめ、エンタメ・コンテンツ、ファッション、メタバース、生成 AI 等に関する執筆・講演等多数。

【司会・モデレータ略歴】

今村 哲也 氏
(明治大学 情報コミュニケーション学部　教授)
大会実行委員長

1999 年早稲田大学法学部卒業。博士（法学・早稲田大学）
本シンポジウムに関連する論文等として、
「AI が再現する「声」と知的財産法の課題」知財管理 75 巻 9 号（2025 年 9 月）、
「声の知的財産法による保護に関する一考察」特許研究 79 号（2025 年 3 月）がある。